

一太郎のすごいところガイド

第10回 レイアウトボックス についてですよ！

by Kaztaro V.6

ようやく一太郎もDTP機能が搭載されました。DTPとは聞き慣れない言葉ですが『デスク・トップ・パブリッシング』つまり『卓上出版』のことですね。コンピュータ業界では何年も前から呪文のように使われている言葉で、その実、我々末端のユーザーには無縁だった言葉です。

さてそのDTPのためには、長文作成のための機能と図形処理のための機能が必要でした。一太郎は、Ver.5までに長文作成のための様々な機能（アウトライン入力や連番機能など）は完成していたのですが、今回Ver.6になったことで、もう一方の図形処理機能が追加されました。

具体的には、レイアウトボックス機能と簡易作図機能です。今回はレイアウトボックスについてお話ししましょう。

レイアウトボックスとは

普通、文章は左から右へ上から下へという方向へ流れでいきます。しかし時には注釈を付けたり、コラムを入れたり、本文とは無関係に文章を挿入したいこともあります。今までのワープロでは、その部分を別の文章として打ち出して、本文に張り付けざるを得ませんでした（OH!WOO!!の編集作業もそうで

すね）。しかしそれは多くの経験と試行錯誤のために紙を必要とします。さらに文章をフロッピーなどに残したい場合、2つ以上のファイルとして保存されることになります。たいした文章でなければ問題にはならないでしょうけど、何度もその文章を再利用する場合や長文の場合などは、たまりません。

そこで今回紹介するレイアウトボ

ックス機能の登場となります。レイアウトボックスとは本文の中に独立して設けられる枠のことで、その中には本文とは違う文章や図を書き込むスペースとなるのです。レイアウトボックスはそれぞれで独立した存在ですから、それぞれの文章スタイルが設定できます。下のボックスを見てください。

① ここがレイアウトボックスの中です。本文と違う文章の設定（例えば、縦書きとか、フォントとか、サイズとか）を設定できます。枠の種類がいろいろ選べるのが、すばらしいですね

すごいぞレイアウトボックス

複数のレイアウトボックスが存在する場合は、それぞれを結びつけるかどうかも設定できます。

上の①のボックスと下の②のボックスは無関係にしてありますから、文章の内容に連続性がありません。

①と③はリンク設定にしてありますから、①の文章の続きが③へと

② このレイアウトボックスは上のレイアウトボックスとは、無関係です。

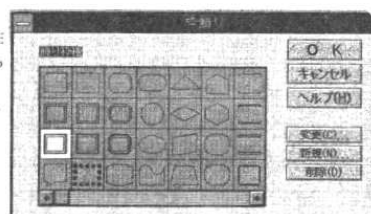
続きます。もちろん①の文章を編集して長くなれば③へ流れ込みますし、短くなれば③から戻ってきます。

③ え。そして枠どうしの連結機能、これがすばらしいねえ。この文章は一つ目の枠の文章の続きなんですよ。
書体は変えてあります

豊富な枠の種類

硬い文章しか作れなかった一太郎がかなり軟化した、と思うのが、この枠の種類だ。実に遊び心を刺激する内容になっている。

下の図はレイアウトボックスのコマンドの中の、「枠の種類」を選択する画面だけども、ぱっと見ただけで使ってみたくなるような枠があることと思う。



ここで形を選んで、さらに影の有無や色、吹き出しの方向や高さ、飾り文字など様々な設定ができるのだ。すごいと思わないか？

レイアウトボックス機能だけのために一太郎を買ってもいいぜ！